横浜天声キリスト教会　週報　第 17 巻 43 号（No.663）　2022 年 10 月 23 日

礼拝プログラム　※主の導きにより変わる事があります

黙祷　イザヤ 56:6-7 ・・・・・・・・ 御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
*賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 306番　恵みをうけて
*交読文　・・・・・・・・・・・・・・・・ 28番
*使徒信条　・・・・・・・・・・・・・・会衆一同
*頌栄　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 308番　実れる田の面（も）は
礼拝のための祈り　・・・・・・・ 成田エクレシア：河執事　天声：小林伝道師
賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 311番　燃える紅葉が山を染め
メッセージ　・・・・・・・・・・・・・・ 主の豊かな実りの祝福にあずかれる人(詩篇 65 篇)
御言葉を適用する祈り　・・ 会衆一同
賛美　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 307番　空とぶ鳥みよ
幸せと成功の宣言文 ・・・・ 会衆一同
献金感謝の祈り　・・・・・・・・ パスター
報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10/24-29 の間、林パスターと川合牧師は韓国コーエンへ出張します。
また、11/2-3 の IM 宣教会の集会のために、お祈り下さい。
*主の祈り　・・・・・・・・・・・・・・ 会衆一同
*祝祷　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ パスター

天声教会は

・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。（ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5）
・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。（ローマ 10:10）
・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。（ローマ 10:10）
・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。（第二テサロニケ 3:5）

祝福の御言葉（下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい）

主に連なり、主に仕え、主の名を愛し、そのしもべとなり、すべて安息日を守って、これを汚さず、わが契約を堅く守る____は――わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、わが祈の家のうちで楽しませる、彼らの燔祭と犠牲とは、わが祭壇の上に受けいれられる。
わが家はすべての民の／祈の家ととなえられるからである」。（イザヤ 56:3−7）
神はいにしえから____の王であって、救を____に行われた。あなたはみ力をもって海をわかち、水の上の龍の頭を砕かれた。あなたはレビヤタンの頭をくだき、これを____に与えてえじきとされた。あなたは泉と流れとを開き、絶えず流れるもろもろの川をからされた。昼はあなたのもの、夜もまたあなたのもの。あなたは光と太陽とを設けられた。あなたは地のもろもろの境を定め、夏と冬とを造られた。主よ、敵はあなたをあざけり、愚かな民はあなたのみ名をののしります。
この事を思い出してください。どうかあなたの鳩の魂を野の獣にわたさないでください。貧しい者のいのちをとこしえに忘れないでください。あなたの契約をかえりみてください。地の暗い所は暴力のすまいで満ちています。しえたげられる者を恥じさせないでください。貧しい者と乏しい者とに御名をほめたたえさせてください。（詩篇 74:12−21）

メッセージ概要

本日は収穫感謝祭、主が与えて下さった大地の実りに感謝し、その中から最も良いものを主に捧げ、喜び祝う日である。大地は種を蒔くと、どのようにしてか知らないが、自然と作物を実らせるもので、夜は寝て朝は起き、そうこうしている内に成長し実が実る。そして実が熟すると、人々は刈り入れる。大地に実る作物を育てていると、私達は本当に主からの「いただき物」によって生かされているのだ、と つくづく思わされる。だから私達は、感謝すべきである。主は田畑に雨を降らせ、地を柔らかにし、その生長を祝福される。主は日の光と暖かさ、雨や風を与えて成長を祝福し、そうして果樹はたわわに実り、木々に御恵みの冠をかぶらせて下さる。まことに、主が通られたあとには、「あぶら（デシェン：豊かさ、脂肪）」がしたたっている。
穀物は黄金色になびいて風が新鮮な草の香りを運び、果樹もたわわに実って、甘い香りを漂わせている。牧草地はあたかも、羊毛の服を着たかのように羊の群れを着て、谷も穀物で覆われている。人々は、主が備えて下さった豊かな実りに喜び湧き立って、賛美しながら刈り取りをしている。その祝福の様が 9-13 節にある。確かに私達も、おいしい穀物や果物がたくさん並んでいるのを見ると、本当に喜びが湧いてくる。

その喜びに満ちた祝福には、どういう人があずかれるのだろうか？詩篇 65 篇を最初から読むと、それは、**自ら主の御前に進み出て、罪を告白し、赦していただく人達**だという事が分かる。弱く罪を犯しがちな私達であっても、悔い改めの心をもって主に近づくなら、主は豊かに赦して（原意：覆って、無かった事にして）下さる(2-3 節)。私達が目指す**万民の祈る家とは、本来、心から主に泣きついて来る人々が集う所**である(イザヤ 56 章)。彼らの祈りと捧げ物は主に受け入れられ、彼らは赦され、癒やされ、新しく造り変えられていく(4 節)。神殿は本来、どんなに貧しい人でも、来て、罪のためのいけにえを捧げて、赦され、主との交わりを持つべき「万民の祈る家」なのに、そこを商売の場とし、鳩さえ売り物にして、貧しい人達からもお金をむしり取ろうとするような仕組みを作った者達を、主は、細縄の鞭をつくって神殿から追い出された。

主は、神を恐れずに神の民を苦しめるような者に対しては、偉大な力と恐ろしい事柄をもって現れ、主に祈り求める民を守られる(5-7 節)。7 節の「海」は、定まりのない恐ろしい所、あるいは不信仰の世界を象徴する。私達は世の海に、すなわち、政治、経済、文化、教育という大海へと漕ぎ出して行く時、巨大で醜い海の巨獣のような相手に出くわすかもしれない。しかし書いてある。主は、レビヤタン（海の巨獣）の頭を打ち砕き、荒野の民のえじきとされた、と(詩篇 74:14)。**レビヤタンのようなモンスター級の巨大組織が相手であっても、主ご自身がその頭を打ち砕いて、私達・荒野で訓練されている聖徒達に食わせて下さる**のだ！
だから私達は、恐れる必要は無い。レビヤタンは、神に敵する勢力としてのエジプト（詩篇 74：14）やバビロン（イザヤ 27：1）を象徴するが、神の民はエジプトを出る時、食い物にして剥ぎ取った。クロス王はバビロンを食い物にした。彼らはそうして分捕ったものをもとに、万民の祈る家である礼拝場所を建てた。主は大能の御力によって騒ぎを鎮めさせ、神の民の群れを救い、聖徒たちを喜び歌うようにさせて下さる(8 節)。だから、私達が行こうとしている先に、どんな強敵が立ちはだかったとしても、主が行けと言っておられるなら、恐れる事は無い。カレブのように「それらは私達の食い物にすぎない」と宣言するのだ。(民数記 14:9)

主は確かに、悔い改めて主にすがる私達に、地の豊かな実りを実らせて下さるが、詩篇 127 篇には、子どもたちも、胎の「実り」であり、報酬である、と記されている。私達がビジョンとして描いている TIA 学校、TIA コミュニティセンターは、そのような栄光の子達がたわわに実り、彼らは鋭い矢のように、将来、政治、経済、文化、教育それぞれの分野へとまっすぐ飛んで行って、その中心を射抜いて占拠していく、そのような子たちを養う場として、祈り求めている。そのような栄光の次世代を養育するビジョンが与えられて今まで祈り求めていたが、この度、その素晴らしいシステムが、まるまる「ただ」で手に入った。詳しくは 11 月 2 日と 3 日、茅ヶ崎・主イエスの恵み教会で行われる、IM 宣教会の集会にご期待いただきたい。

私達は聞き従う心をもって、今日の箇所に記されているような、たわわな栄光の実りをどんどん獲得して行こう。祝福の元となる御言葉を守り行い、御言葉に約束された大いなる祝福を、実際に享受して、地の豊かな実りだけでなく、栄光の子たちという胎の実りをも、たわわに得て、政治、経済、文化、教育、あらゆる分野を射抜いて行く働きをして行く私達でありますように！イエス様のお名前によって祝福します！

お祈りしていただきたい事がありましたら、以下にお書きの上、教会へお持ち下さい。

集会案内

主日礼拝（日曜）

日本語礼拝	礼拝 11:30
English Service	14:30

日々の集会

月～金　早天祈祷会	5:00～
火・木・金　賛美と祈りの集会	13:00～
火～木　夜の祈祷会	19:00～

水曜礼拝

1 部	13:00～
2 部	19:00～

金曜祈祷会　19:00～

各礼拝はインターネットでライブ中継しております　→　youtube.com/c/横浜天声キリスト教会

アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅
6 番 B 出口を出てまっすぐ徒歩 5 分
JR・関内駅より徒歩 10 分
京急線・日ノ出町駅より徒歩 10 分

関内駅から伸びる大通公園沿い、
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、
1F がファミリーマートになっております。

聖書メッセージをメールでお届けします。
左記コードを読み込み、
空メールを送信するだけ！

第 17 巻 43 号　　2022 年 10 月 23 日

横浜天声キリスト教会

礼拝　週報

〒231-0058　　パスター：　林和也　川合ゆきえ
神奈川県横浜市中区弥生町 2-17　ストークタワー大通公園 I-201
TEL/FAX：　045-326-6211
Homepage：　http://voice.of.christ.yokohama/
email：　ephes_03-tensei@yahoo.co.jp